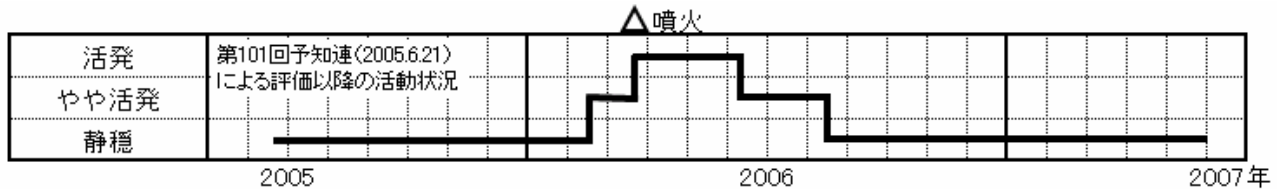


雌 阿 寒 岳

○ 火山活動評価：静穏な状況

火山活動に特段の変化はなく、静穏な状況です。



○ 概況

・ 噴煙活動（図 2）

いずれの火口の噴煙にも特段の変化はなく、静穏に経過しました。

赤沼06火口群 : 火口縁上の高さ100～200mで推移しました。

北西斜面06噴気孔列 : 高さ100m以下で推移しました。

ポンマチネシリ 96-1 火口 : 火口縁上の高さ 100m以下で推移しました。

・ 火口や噴気の状況（図 2）

10 日に北海道立地質研究所が行った現地調査によると、ポンマチネシリ 96-1 火口の温度は約 80 度と、前回（2006 年 9 月：約 180 度）よりさらに低下し 2000 年以降の温度低下傾向が継続しています。

・ 地震活動（図 2、図 3、表 1）

火山性地震は 1 日あたり 0～4 回と少ない状態で推移し、地震活動は低調な状態で経過しました。火山性微動は観測されませんでした。

・ 地殻変動（図 4、図 5）

GPS 連続観測では火山活動によると考えられる変動は観測されませんでした。

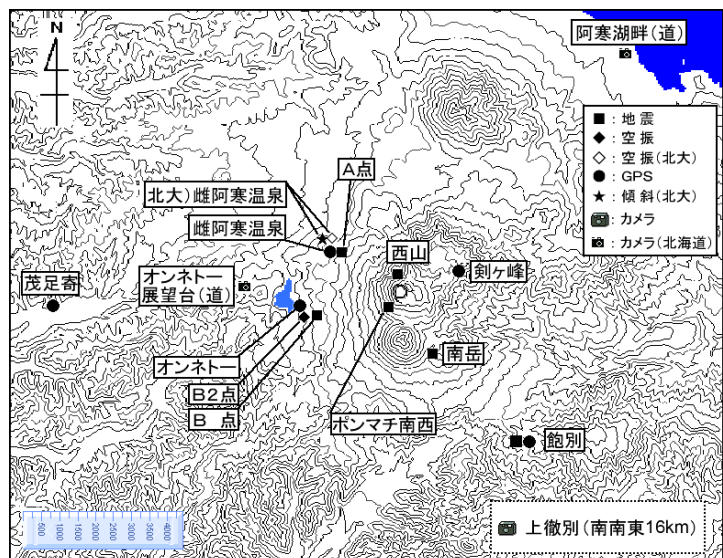


図 1 雌阿寒岳火山観測点配置図

※資料は気象庁のほか、北海道、北海道立地質研究所のデータを利用して作成しています。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図 50m メッシュ（標高）』を使用しています（承認番号 平 17 総使、第 503 号）。

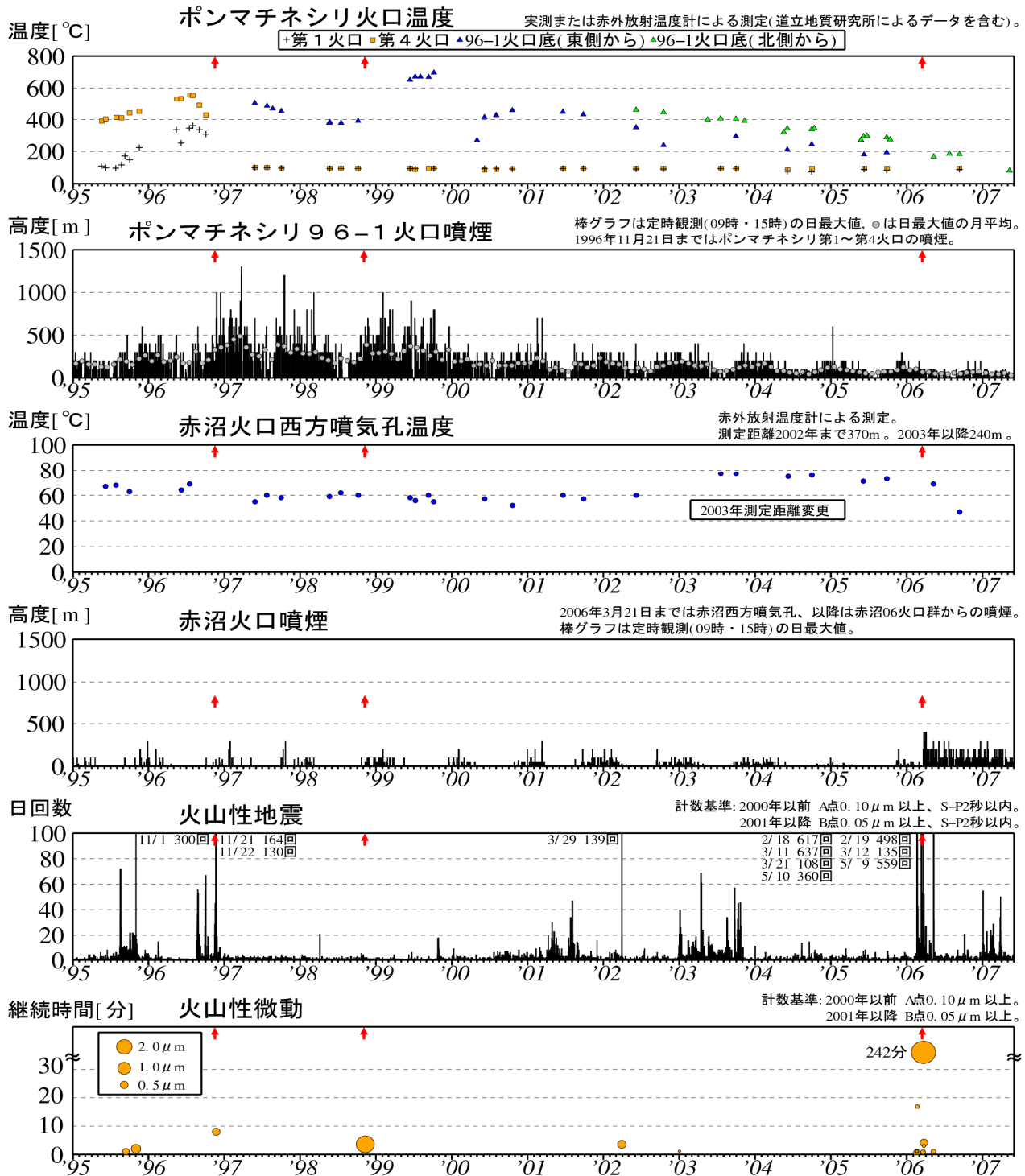


図2※ 雌阿寒岳 最近の火山活動経過図（1995 年 1 月～2007 年 5 月） ↑印は噴火

（1996 年、1998 年：ポンマチネシリ 96-1 火口からの噴火、2006 年：赤沼火口からの噴火）

- ・ポンマチネシリ 96-1 火口の熱活動、噴煙活動は 2000 年以降徐々に低下し、その傾向は 2003 年以降明瞭になっています。2006 年 3 月の小噴火後もこの状況に変化は見られていません。
- ・赤沼 06 火口群の噴煙活動は、2006 年 3 月の小噴火後は活発な状況でしたが、その後活動は次第に低下し、最近では静穏な状況で推移しています。
- ・地震活動は 2006 年 3 月の小噴火前は活発な状況で推移していました。小噴火後は、5 月に一時的に多発したほかは少ない状態で経過していましたが、2007 年 1 月～3 月にかけて一時的にやや増加する活動を繰り返しました。

表 1 雌阿寒岳 地震・微動の月回数（B 点：図 3 の MEAB）

2006～2007 年	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	4 月	5 月
地震回数	34	34	23	42	79	16	20	195	228	213	67	32
微動回数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

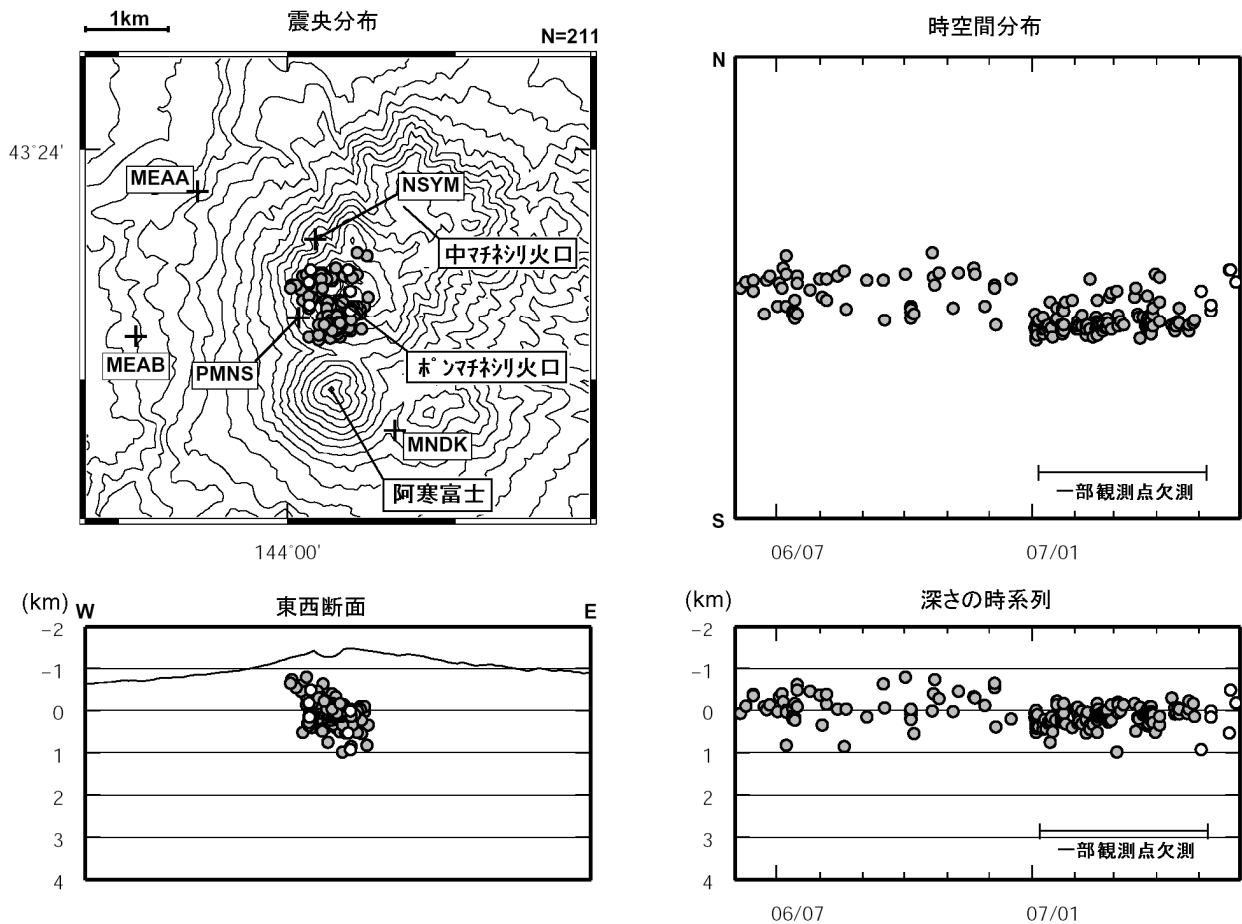


図 3 雌阿寒岳 震源分布図(2006 年 6 月 1 日～2007 年 5 月 31 日、+は地震観測点)

2007 年 1 月 3 日～5 月 5 日にかけて一部観測点欠測のため震源決定数が減少し、精度が低下しています。

○印は今期間（2007 年 5 月）の震源

●印は前期間までの 11 ヶ月間（2006 年 6 月～2007 年 4 月）の震源

- ・前期間までの震源の多くは、ボンマチネシリ火口直下の浅い所（山頂から深さ 1～3km 付近）に分布しています。今期間に求まった震源も概ねこの領域内に分布しています。

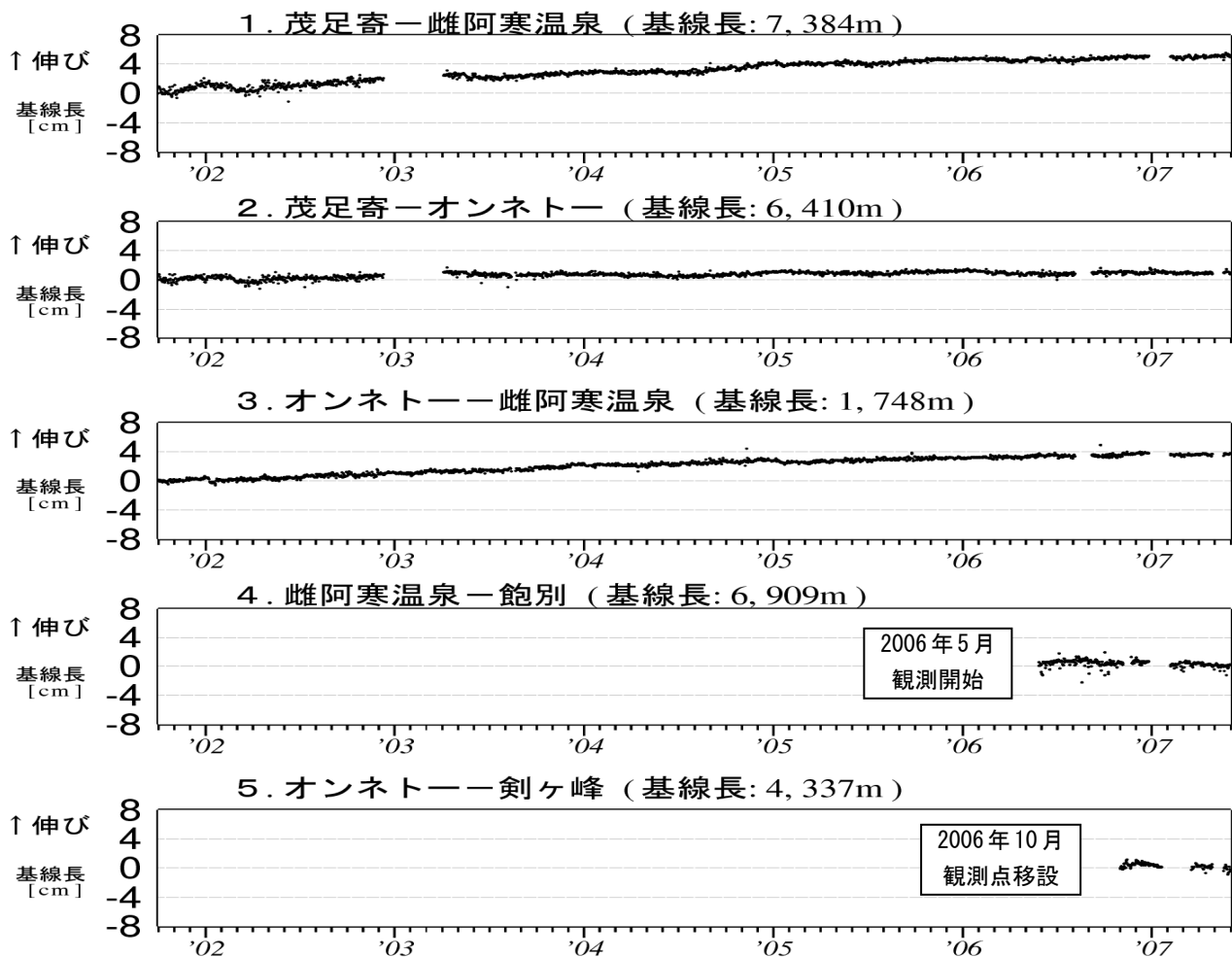


図4 雌阿寒岳 GPS 連続観測による基線長変化（2001 年 10 月～2007 年 5 月）
 グラフの空白部分は欠測
 図4の1～5は、図5のGPS基線①～⑤に対応しています。

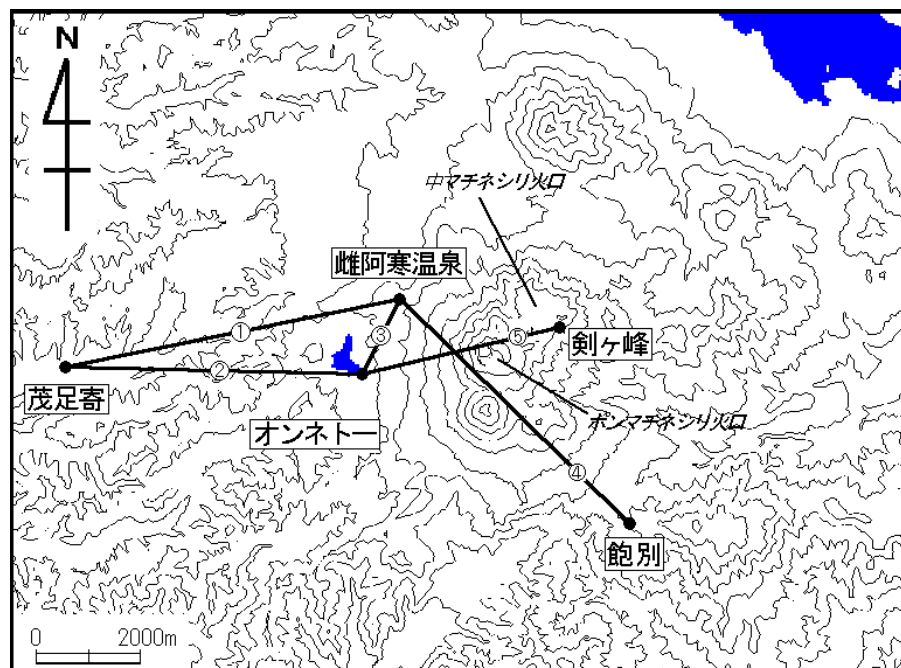


図5 雌阿寒岳 GPS 連続観測点配置図